

児童福祉施設に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 子育て世代包括支援センター（母子健康包括支援センター）は、障害児とその保護者のみを対象として、子育てに関する相談に応じ、必要に応じ助言を行う施設である。
2. 助産施設は、特定妊婦を入院させて、助産を受けさせることを目的とした施設で、助産師等病院に必要な職員のほか、保育士の配置も義務とされている。
3. 児童自立支援施設は、児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすることを目的とした施設である。
4. 母子生活支援施設に入所した児童については、都道府県等は保護者から申込みがあり、かつ、必要があると認めるときは、満20歳に達するまで保護することができる。
5. 障害児入所施設には、感染症や非常災害の発生時において利用者に対する支援の提供を継続的に実施するための「業務継続計画」の策定は、義務付けられていない。

〔正答番号〕 1 2 3 ④ 5

高齢者福祉に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 老人福祉法は、要介護状態又は要支援状態にある介護保険の被保険者に対して必要な保険給付を行うと規定している。
2. 介護保険制度では、在宅の要介護者には、居宅介護支援事業者の介護支援専門員（ケアマネジャー）が介護サービス計画（ケアプラン）を作成する。
3. 介護給付は、施設サービスと居宅サービスであり、通所介護は含まない。
4. 地域包括支援センターは、寝たきりの状態にある高齢者などに対して看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練などを行う施設である。
5. 介護保険で「要介護」と認定された者には、介護予防についてのケアマネジメントが実施され「予防給付」が支給される。

〔正答番号〕 1 ② 3 4 5

障害児の支援に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 障害児の支援においては、障害の特性による二次障害を予防する観点も重要であることを念頭に置いて支援を提供するとともに、エンパワメントを前提とした支援をすることが重要である。
2. 障害のある乳幼児の支援に当たっては、アタッチメント（愛着）の形成よりも家族への支援が特に重要である。
3. 障害児支援利用援助とは、保育所等に通う障害児又は児童福祉施設等に入所する障害児について、当該施設を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することをいう。
4. 障害児入所給付費及び障害児通所給付費の支給はともに市町村（特別区を含む。）の業務であると児童福祉法に規定されている。
5. 障害児入所施設は、近年、地域における障害児支援の中核的役割を担うことが明確化され、また、福祉型、医療型に分かれていた類型が一元化されて障害種別にかかわらず障害児を支援できるようになった。

〔正答番号〕 ① 2 3 4 5

日本における子どもを取り巻く状況に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 2010（平成22）年に策定された子ども・子育てビジョンにおいて、社会全体で子育てを支えていくことよりも、各家庭が中心となって子育てを担うことが基本的な考え方として示された。
2. 2012（平成24）年に子ども・子育て関連3法が成立し、保育所、幼稚園、認定こども園の所管が統一された。
3. 人口動態統計によれば、出生数が人口動態調査開始以降初めて80万人を割り込んだのは、2022（令和4）年であった。
4. 国民生活基礎調査の結果を見ると、2021（令和3）年の「子どもの貧困率」（17歳以下）は約5％となっている。
5. 保育所等関連状況取りまとめ（令和5年4月1日）によると、待機児童数は現在も微増傾向にあり、2023（令和5）年の待機児童数は全国で約1万人となっている。

〔正答番号〕 1 2 ③ 4 5

次のうち、児童期の発達に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 児童期には、ピアグループと呼ばれる排他的でない親密な仲間集団が形成され、その後ギャンググループへと変化していく。
2. 児童期には、友人選択の理由は行動や外的なものから人格などの内面的なものへと変化していく。
3. ピアジェによれば、7、8歳以降に他律的道德性の段階に入っていく。
4. セルマンによれば、児童期は、それぞれの人の視点が多次元的あるいは深いレベルで存在していることを相互に理解する段階である。
5. 小学校に入る時期になると「話しことば」が消失し、「書きことば」の世界に急に転換する。

〔正答番号〕 1 ② 3 4 5

保育所保育指針において乳児保育の「社会的発達に関する視点」に示されている内容の記述として妥当なのはどれか。

1. 子どもからの働きかけを踏まえた、応答的な触れ合いや言葉がけによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。
2. 体の動きや表情、発声、喃語等により、他の乳児とのやり取りを楽しむ。
3. 地域との交流等の機会を通して、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す。
4. 保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、正しい単語や発音、音程が身に付く。
5. 温かく、受容的な関わりを通じて、他者を肯定する気持ちが芽生える。

〔正答番号〕 ① 2 3 4 5

5 種混合ワクチンについての記述として妥当なのはどれか。

1. 定期接種として2010年4月に導入された。
2. 従来の4種混合ワクチンに Hib ワクチンを加えたワクチンである。
3. 7歳以降の接種が推奨されている。
4. 接種回数は、4種混合ワクチンと異なり、1回のみで接種完了となる。
5. 生ポリオワクチンが含まれている。

〔正答番号〕 1 ② 3 4 5

1 型糖尿病についての記述として妥当なのはどれか。

1. 幼児期に発症する糖尿病のほとんどを占める。
2. オキシトシン不足により血糖値が上がる疾病である。
3. 日光を長時間浴びることで血糖値が上がるため、長時間の戸外活動は避ける。
4. 1 型糖尿病の幼児には食事や運動の制限が最も重要である。
5. 食器類の共有で感染するため、食事の際の感染予防対策が必要である。

〔正答番号〕 ① 2 3 4 5



乳幼児の基本的な生活習慣に関わる援助に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 1歳以上3歳未満児の保育では、手洗いの際に、手洗いに伴う快さの感覚と意味を結び付けて、その必要性を理解できるよう、保育士は根気強く言葉がけをしながら関わるとよい。
2. 1歳以上3歳未満児の排泄に関しては、子どもの気持ちのがのらない場合でも、長い時間便器に座らせていれば排泄することもあるため、じっくり待つ姿勢が大切である。
3. 1歳位から衣服の着脱が始まるが、子どもが「自分でする」と言うことも多いため、その場合、保育士は子どもの様子を見守り、一切手伝わないようにする。
4. 3歳以上児では、一度身につけたと思われる基本的な生活行動が崩れることがある。これは、その必要性を感じられなくなっているためであり、保育士は丁寧に指導をし直すことが必要である。
5. 十分に遊んだ後の満足感があれば、次の活動への期待感を生み出し、片付けの必要性も理解するようになるため、自発的に片付けができるようになる時期まで、援助はせずに、じっくりと待つとよい。

〔正答番号〕 ① 2 3 4 5